

通 教 月 報

診 療 情 報 管 理 研 究

平成30年2月号

編 集

発 行 人

武田 隆久

〒102-8414 東京都千代田区三番町9-15

一般社団法人 日本病院会 通信教育課

TEL 03-5215-6647 (受講生専用)

FAX 03-5215-6648 (受講生専用)

URL <http://www.jha-e.com/>

受付時間

9:00~17:00  
(ただし、土・日・祝祭日、年末年始は除く)

発 行 日

毎月1日

定 価

1部 150円 1カ年1,600円(税込・送料込)

郵便振替

00190-5-396045

名 義

一般社団法人 日本病院会 通信教育部

## 診療情報管理士の役目

宮内 誠

医療法人康誠会 理事長

これまで我が国の医療は世界に類を見ない優れたものとして評価されてきました。その理由は安価な診療費で、誰でもいつでも受診可能であり、医療水準の格差は少なく、先端医療も広く普及していることにありました。しかし医療必要度のチェック、総量抑制のための削減医療、病院総数のコントロールなどの制度がなく、総医療費は増加の一途を辿り、その上いまだ経験したことのない高齢化社会の到来と人口減少が現実のものとなり始めました。

そこで国は大胆な構造改革に乗り出しています。急性期病床を縮減して回復期、慢性期病床への転換、施設の役割明瞭化と機能集約化、医療と福祉のすみわけ、高齢者医療の見直し、高齢者の社会的受け入れ態勢の充実等です。これに伴い、地域医療構想が全ての都道府県で策定され、それぞれの二次医療圏で医療機関の機能分化や連携統合が進められています。この機能分化はあくまでも地域医療の質を維持するための手段であり、それ自体が目的ではありません。それぞれの地域における少子高齢化や人口減少の状況、医療資源の現状により各医療機関の置かれている環境は全く異なっており、その状況を踏まえながら地域医療構想と連動する独自の病院運営が必要です。

それには診療情報管理士が担う、診療情報の内容精査、精度の高い情報管理とその情報に基づき高機能なデータベース構築とデータの管理活用が必要不可欠です。診療情報管理士の業務は診療録・DPC・レセプト・がん登録・NCD・QI・DiNQL等々、日々病院で生まれるビッグデータの管理が中心と言えるでしょう。色のないデータを意味付けする事により、その地域全体のデータ管理になり、その地域を知り尽くした現場の発想に基づいたデータの意味付けは今後の病院経営戦略上、最も重要であり、病院の存在価値を決めると言っても過言ではありません。決して派手な存在ではありませんが、経験を積むにしたい、とてもやりがいのある仕事です。

病院経営にマジックはあるはずはなく、むしろその基本は良質な医療提供(王道)を進むことに他ならないと思います。共に地域医療を守るために頑張りましょう。

専門家とはより少ないものについてさらに知識を増やして行く事であり、医学は決して終わりなく進歩する学問です。

